

ケアマネジャーから見える 世田谷の福祉の未来



世田谷ケアマネジャー連絡会
副会長 佐藤庸平

今日の流れ

-  過去3年の研修を振り返る
-  データを通してみる現場
-  過去の学びを現場に重ねてみて
-  ケアマネジャーから見える世田谷の福祉の未来



過去3年の研修を振り返る
— 私たちが学んできたこと —



今回のテーマに関連する過去3年の研修

基調講演

- ・「その人らしい」を最後まで支えるマネジメント
- ・認知症の人の生活を地域で支える
- ・多様化する家族とケアマネジメント

主任ケアマネ研修

- ・地域包括ケアと医療連携
- ・第9期介護保険事業計画
- ・人生の最期への支援
- ・ケアマネ業務とシャドーワーク
- ・介護情報基盤



データを通して見る現場 — 世田谷区の調査結果から見えること —



世田谷区死亡小票分析に見る現状把握

世田谷区死亡小票分析から見る現状

- ・ 病院での看取りは減少
- ・ 看取りの半分弱は病院以外
- ・ 自宅での看取りは減少
→ 施設での看取りが増加
- ・ 自宅死亡の約35%が異状死

※異状死：看取り死以外で監察医が扱った死亡



私たちは何を見落としているのか

— 自宅で亡くなった方の約35%が異状死 —

- なぜ必要な支援につながらなかったのか
- 支援を拒否していたのか
- 家族が孤立していたのか
- 情報が届かなかったのか
- 支援の入口がなかったのか
- **地域は本当に支えられているのか**



過去3年の学びを現状に重ねてみて



病院との連携はまだ強化できる

- ① 人生の最期を迎える場所は**病院から地域へ移行している**
- ② 今こそ**医療と地域の連携の質を高める時期**
- ③ 生活モデルを意識した連携



家族全体のアセスメント力

- ① 家族全体のアセスメント力
- ② 利用者だけではなく**家族全体**を見ていく力
- ③ 自宅での看取りには欠かせない視点



人生最期の質を決めるのはその人らしさ

- ① 私たちが提供するサービスは**目的ではなく手段**
- ② 【支えられる人】から【支える人】
- ③ 認知症の方の可能性



孤立化にどうアクセスするか

- ① サービス提供の難しさ
- ② 進む単身化・孤立化
- ③ 地域で見守る文化



効率性

- ① 対人援助職が直面する時間のジレンマ
- ① DXによる業務の再構築
- ① シェドワークの見直し
- ① すべては質の高い支援のために



今後私たちに求められるもの

- ① 業務の効率化に向けた理解の促進
- ② 適切な社会資源の検討
- ③ 本質的なケアマネジメントの深化
- ④ 医療機関との連携の質向上
- ⑤ 施設との連携の質向上



ケアマネジャーから見える 世田谷の福祉の未来

医療との連携の質が高まり**人生の最期を安心して迎えらる地域**

家族や地域の力が活かされ**孤立しない地域**

支援が必要な人に早く届き**支援からこぼれ落ちない地域**

そしてー

その人らしい人生を**最後まで支えられる世田谷**



「支える人」が増えるほど、
世田谷の福祉は強くなる